

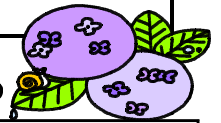


# 三笠だより

舞鶴市立三笠小学校  
学校だより 6月号  
令和3年5月31日発行  
<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>



## 自分だったらどうかなと考える



2年生が育てているミニトマトに、青い小さな実が付き始めました。見つけた小さな変化を、毎朝うれしそうに教えてくれます。1年生のアサガオの葉も、日に日に大きくなっています。

6月は、いじめ防止強化月間です。5月17日には、三笠小学校で独自に作成した視覚教材を使い、「コロナから心を守る」という授業を全学級で行いました。新型コロナウイルス感染症は、だれもがかかる可能性があり、感染した人が悪いのではないこと、感染したとしても、治って登校できるようになったとき、どんな学級だったら安心できるだろうかということを考える授業です。昨年秋の人権月間にも全校で行いましたが、今回あらためて各学級で話し合うことで、あらたな気付きも生まれていました。

差別や偏見、いじめについて考えるとき子どもたちに持っていてほしいのが「自分だったらどうかな。」という視点です。差別はいけない、いじめは絶対に許されないということは知っていても、自分のこととして考えなければうわべだけの理解になってしまいます。自分だったら、友達にどんな風に接してほしいかなと考えると、ただ単に「悪口を言わない。」だけではない考えが出てきます。「興味本位に『どうだった?』『味やにおいがわからなくなるってホント?』などと聞かないでほしい。」「うわさ話をしないでほしい。」「いつもどおり接してほしい。」「大勢からわいわい言われると嫌だけど、仲良しの子がそっと『心配してたよ。』と言ってくれたらうれしい。」など、子どもたちは「自分だったらどうしてほしいか」「どんな風に接してもらったら安心できるか」を一生懸命考えていました。

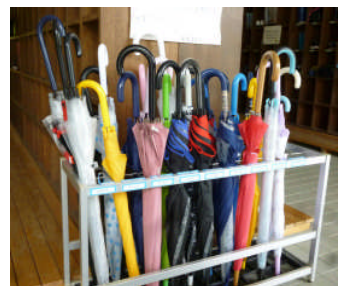
6月のいじめ防止強化月間では、いじめについて考える全校集会、いじめアンケートや児童一人一人と担任との面談、関連する絵本の読み聞かせなどの取組を行います。また、児童会では、なかよし班掃除やなかよし班遊びなど、学年を超えてなかよくなる、児童主体の活動を計画しています。三笠小学校の特色のひとつ、「全校ダンス」の取組も始まっています。これらの取組をとおして、人とつながる楽しさ、よさを実感させ、自分も人も大切にできる力をはぐくみたいと思います。

緊急事態宣言が再延長され、まだまだ先の見えない状況が続きます。また、寒暖の差が激しく、体調を崩しやすい季節を迎えます。学校でも、息苦しいときはマスクを外す、マスクを外したらしゃべらないなど、熱中症予防と感染症予防を並行して行います。ご家庭や寮におかれましても健康管理に十分ご留意いただき、元気に学校生活を送ることができますよう、ご協力のほどよろしくお願いたします。



校長 小島 みどり

ほとんどの児童がきれいに傘を巻いて入れようになり、巻き直しが必要なのは数本にすぎませんでした。高学年が声をかけているうれしい姿も見られます。傘を巻いてまっすぐに入れるということ、物を大事にするのと、隣の人が入れやすいように、抜きやすいということだと思います。この積み重ねを大事にしていきます。



すっきり傘立て  
雨の日の、児童昇降口の傘立ての様子です。